

研究課題名	ドライバー遺伝子変異陽性肺癌の腫瘍免疫微小環境と分子標的治療の効果に関する検討
研究の意義・目的	この研究の目的は、がんの発生および進展に直接的に影響する遺伝子異常であるドライバー遺伝子変異が陽性の非小細胞肺癌の診断時腫瘍組織検体を用いて、腫瘍細胞や周囲の免疫環境を評価し、治療効果との相関を明らかにすることです。この研究は、患者さんに分子標的薬や免疫療法の効果が期待できるかどうかの評価を行うための足がかりとなることが期待されます。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2026年3月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2014年4月から2024年4月に大阪公立大学医学部附属病院で分子標的薬治療を受けた肺癌の方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：腫瘍組織 診療情報：年齢、性別、喫煙歴、ECOG-performance status (PS)、診断名、組織型、病期、転移部位、画像所見、PD-L1発現割合、ドライバー遺伝子変異年齢、診断確定日、手術日、組織検査施行日、初回治療開始日、治療内容、治療効果、再発日、増悪日、治療終了日、死亡日
試料・情報を利用す る者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院呼吸器内科のみで行います。
試料・情報の管理に ついて責任を有する 者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 研究分担者である渡辺徹也は、本研究で対象とする薬剤イレッサ、タグリッソの製造販売元であるアストラゼネカ株式会社から、講演による報酬を得ています。また、研究分担者である金田裕靖は、日本イーライリリー株式会社から本研究とは異なる研究において受託研究費を受領しております。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 (担当者氏名) 水谷 萌 電話番号：(06) 6645-2121 メールアドレス：gr-med-omu.oncol@omu.ac.jp